

スピーカー 音質比較

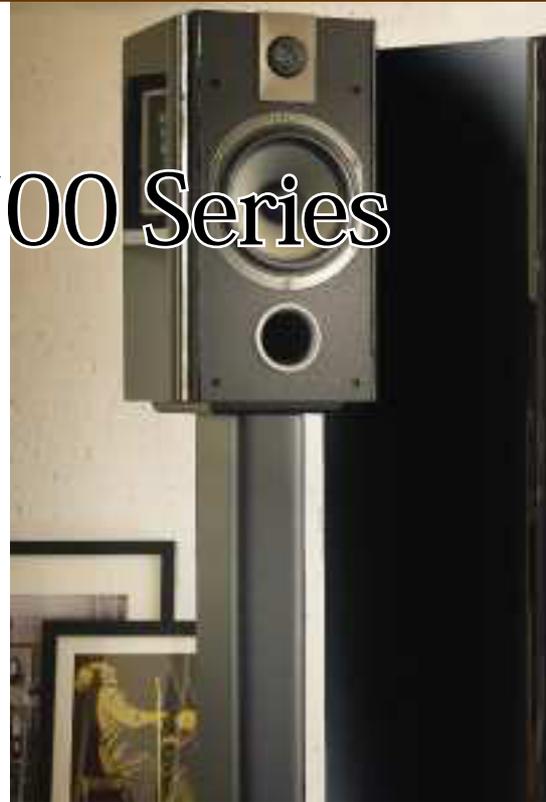
FOCAL New Chorus 700 Series

FOCAL Chorus 726

希望小売価格 ¥256,000 (RW・WNペア)

希望小売価格 ¥276,000 (BHG・ペア)

形式: 3Way・パスレフ方式 ●ユニット: 高域:
25mm/TNF.AL.MGL 逆ドーム
中域: 165mm×1、低域: 165mm×2
●能率: 91.5dB/2.83V/1m ●クロスオーバー:
300Hz/3000Hz ●周波数特性: 49-28kHz ●イン
ピーダンス: 8Ω ●サイズ: W222×H990×D343
(mm) ●重量: 23.5Kg(1台) ●仕上げ: RW: ロー
ズウッド WN: ウォールナット BHG: 光沢ブラッ



New Chorus 700 Series の特長

実質主義

多くのスピーカーメーカーは、自社製品に使用するスピーカー・ユニットを ScanSpeak などのユニット専門メーカーから供給を受けています。あるいはユニットメーカーと共同で OEM ユニットの開発を行い、それを使います。Focal 社は自社製品に使用するユニットの設計・製造を自ら行える、数少ないスピーカーメーカーの一つです。NewChorus700Seriesにも、Focal が設計・製造する "Made in France" の Focal 自製ユニットが採用されます。さらにキャビネットの設計、外観デザイン、アッセンブリーを含めすべてがフランスで生産される、NewChorus700Series は「100% Made in France」の製品です。

"France" と聞けば、フランス料理やパリのコレなど、ファッションや料理を思い浮かべ、優れた工業製品を輸出しているイメージはありません。しかし、今を去る約 130 年前の 1887 年に "エッフェル塔" を建設し、世界で唯一の超高速旅客機 "コンコルド" をとばし、超特急鉄道 "TGV" を走らせるなど、欧州でもその技術力はトップレベルにあります。車に目を向けると、ドイツやイギリスがベンツ、BMW、ロールスロイスなど高級ブランド車を生産するのにに対し、フランスはブジョー、ルノー、シトロエンなどの大衆車を得意とするなど、生み出す製品の性格が異なります。Focal のスピーカーも「実質主義」を引き継ぎ、イギリス B&W よりも安くても良い製品を市場に送り出しています。「実質主義」を標榜する Focal 社と「安くてもいい！それが大阪」をモットーとする逸品館には、どこか共通点を感じます。そういう「大阪の実質主義眼」で Focal を見れば、実に巧みな設計とデザインが行われている事に気付きます。

Focal 社のスピーカーは、最上級モデルは振動板に「ベリリウム」が、Aria/Chorus には「アルミ・マグネシウム合金」が振動板に使われる、自社製の逆ドーム型ツイーターが使われます。NewChorus700Series には、彼らが "TM2" と名付けた、最上級モデルで培われたノウハウにより設計された特殊なサスペンションを持つアルミ・マグネシウム合金製逆ドーム振動板を採用する 25mm 口径ツイーターがすべてのモデルに使われています。この優れたツイーターの採用により、NewChorus700Series の全モデルは、このクラスのスピーカーの水準を超える細やかで色彩感のある艶やかな高域を再現します。



キャビネット

Chorus には 25mm 厚の MDF キャビネットが使われています。フロントパツフルはそれよりも強固に対策され、不要な定在波

を発生しない非並行型キャビネットが採用されています。後ろに向かってスピーカー幅が狭くなる非並行サイドパネルを Focal は、すでに 30 年以上前から採用しています。キャビネット内部には、共鳴と共振の抑制、キャビネット強度の向上を目的とした「リブ (内部補強材)」が使われています。優秀なキャビネットを与えられた Chorus は、このクラスのスピーカーの水準を超える量感と密度感を兼ね備えた、良好な低域を再現します。

ツイーター



ウーファー

Chorus700Series のウーファースの材質は、Aria に採用された 0.04mm のグラスファイバーで 0.4mm の植物繊維系素材をサンドイッチした "F SandwichCone" でなく、従来と同じグラスファイバーと高分子樹脂素材が組み合わされたコーン紙が使われます。ウーファースの口径は 130mm/165mm の 2 種類、さらに口径 165mm のミッドレンジユニットが準備され、モデルによりそれらが単独で、あるいは組み合わせられて使われます。軽く強度が高く適度なダンピングを持つ、NewChorus のウーファースはレスポンスに優れ、音楽を楽しく弾ませます。

NewChorus700Series の入力端子は、バナナプラグ対応シングルワイヤーです。トルボーイ型の 714/716/726 には高さ調整が可能なスパイク (先端保護キャップ付き) とスパイクを使いたくない時に、スパイク用ねじ穴に取り付けて使える小さなゴム脚が付属します。



入力端子 (左) / 付属品 (右)





使用した機材



Marantz PM8005



Marantz SA8005



audioquest Red Rever

Aria Series のラインナップと主な仕様

FOCAL
Chorus 705

形式：2Way・バスレフ方式●ユニット高域：25mm/TNF.AL.MGL 逆ドーム 中・低域：130mm×1●能率：89dB/2.83V/1m●クロスオーバー：3000Hz●周波数特性：65-28kHz●インピーダンス：8Ω●サイズ：W190×H315×D227mm●重量：5.7Kg(1台)●仕上げ：RW/WN/BHG
希望小売価格 ¥86,000 (RW・WN・ペア)
希望小売価格 ¥98,000 (BHG・ペア)

FOCAL
Chorus 706

形式：2Way・バスレフ方式●ユニット高域：25mm/TNF.AL.MGL 逆ドーム 低域：165mm×1●能率：90dB/2.83V/1m●クロスオーバー：3000Hz●周波数特性：55-28kHz●インピーダンス：8Ω●サイズ：W220×H390×D263(mm)●重量：8.2Kg(1台)●仕上げ：RW：ローズウッド WN：ウォールナット BHG：光沢ブラック



希望小売価格 ¥106,000 (RW・WN・ペア)
希望小売価格 ¥120,000 (BHG・ペア)

FOCAL
Chorus 714

形式：2.5Way・バスレフ方式●ユニット高域：25mm/TNF.AL.MGL 逆ドーム 中域：130mm×1、低域：130mm×1●能率：91dB/2.83V/1m●クロスオーバー：300Hz/3000Hz●周波数特性：52-28kHz●インピーダンス：8Ω●サイズ：W200×H900×D268(mm)●重量：16Kg(1台)●仕上げ：RW：ローズウッド WN：ウォールナット BHG：光沢ブラック



希望小売価格 ¥212,000 (RW・WN・ペア)
希望小売価格 ¥234,000 (BHG・ペア)

形式：2.5Way・バスレフ方式●ユニット高域：25mm/TNF.AL.MGL 逆ドーム 中域：165mm×1 低域：165mm×1●能率：91.5dB/2.83V/1m●クロスオーバー：300Hz/3000Hz●周波数特性：50-28kHz●インピーダンス：8Ω●サイズ：W221×H950×D308(mm)●重量：20.5Kg(1台)●仕上げ：RW：ローズウッド WN：ウォールナット BHG：光沢ブラック

FOCAL
Chorus 716

Focal New Chorus 726 音質テスト



Hilary Hearn "Bach Concerto" 上級モデルの Aria926 と比べると、Chorus726 はよりメリハリが強く音質がクッキリしています。また音色が Aria よりも明るく、全体的に快活な印象を受けます。音場も大きく広がり、立体感に富ん

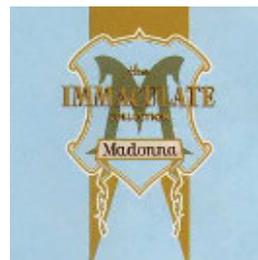
でいます。低域も膨らみません。

弦楽器の高音は Aria よりややきつく、金属的に感じられますが決して不快な音ではありません。メリハリが効く高音は、一小節、一小節の区切りを明解で元気よく奏でバツハをリズムカルに鳴らします。バイオリン、チェロ、コントラバスの分離も非常に明解でわかりやすく、音楽に合わせ身体が動き

出すような音で第一楽章が聞けました。

続けて聞く第2楽章は第1楽章の快活さとは逆に、静かで情緒的な沈み込みが求められます。コントラバスのパートは重厚で深く鳴りますが、暗くなりません。バイオリンソロのパートの音色は繊細で女性的ですが、強い憂いを秘めるような音ではありません。十分に情緒的ですが、その中に女性的な優しさと明るさを感じさせる音で第2楽章をさらりと鳴らしました。

Chorus726 は明るく快活で人気の高い B&W と同じ方向性の HiFi 基調の明瞭なサウンドが特長ですが、フランス製品らしく B&W より明るく、独特な艶を持つ音色で音楽を情緒的なテイストを込めて鳴らしました。



Madonna "The Immaculate Collection" から Like a Virgin

この曲では新しく採用された "INV2" ツイーターの良さが光ります。

高域の切れ味が抜群で、一皮むけたような明解で楽しい音。ボーカルの抜けが良

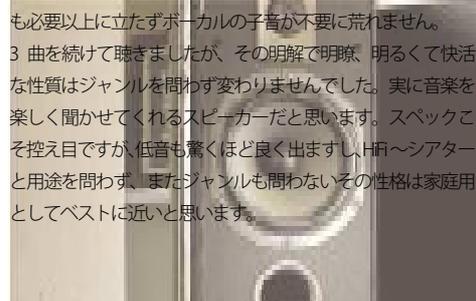
く、発音のはっきりと聞き取れ、その内容に説得力があります。ベースラインも膨らまずリズムカルにベースが鳴り、打ち込みの音もクッキリと鮮やかに彩りを添えます。

高音、中音、低音の各パートが明解に分離され、正しくハーモニーを奏でるので音楽が実に楽しく躍動します。細かい説明など不要な、聞かばすぐにわかる楽しい音でマドンナが鳴りました。



orange pekoe "10th Anniversary Best Album SUN&MOON" から やわらかな午後
マドンナでリズムラインが歯切れ良く鳴ったように、この曲でもシンバルやドラムが綺麗に鳴りま

す。
Chorus726 の高音は、ViennaAcoustics のようなテクスタイルドーム型ツイーターを採用するモデルと比べると、確実に芯が強く明瞭で理解です。確かにクラシックギターの音がやや「金属弦」を使っているように硬く、響きもやや硬質に聞こえることがありますが、一般的な金属ツイーターよりも音は流暢で艶があります。また、同じメタルドーム型ツイーターを搭載する B&W と比べると、その高音には艶がありエッジ



も必要以上に立たずボーカルの子音が不要に荒れません。
3 曲を続けて聴きましたが、その明瞭で明瞭、明るくて快活な性質はジャンルを問わず変わりませんでした。実に音楽を楽しく聞かせてくれるスピーカーだと思います。スペックこそ控え目ですが、低音も驚くほど良く出ますし、HiFi〜シアターと用途を問わず、またジャンルも問わないその性格は家庭用としてベストに近いと思います。

Focal New Chorus 716 音質テスト



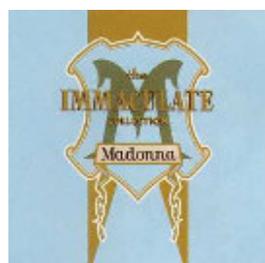
Hilary Hearn "Bach Concerto"
今回届けられた Chorus 700 Series の試聴機は、726 は「突き板仕上げ」、716 は「ピアノブラック (ブラックハイグロス) 塗装 + レザー仕上げ」と外観が違います。通常スピー

カーの音色は、表面に薄く張られる突き板の材質だけではそれほど大きく変化しませんが、ユニットの音をダイレクトに反射するパツフルが硬質な突き板から、軟質なレザーに変わると音が変わるはず。Chorus716 はその影響が、726 に比べ高音が僅かに柔らかく柔軟に感じられます。弦楽器の高音も 726 よりも少し柔らかく、より有機的色合いを濃く感じますが、それは耳をそばだてて注意深く聞き比べて始めてわかるほどの小さな違いですから、仕上げと音質の違いにそれほど神経質になる必要はなさそうです。

音の量感が少なくなった分、マンションなどの音漏れが気になる場面では使いやすくなっていると考えます。
726 の突き板仕上げのメーカー希望小売価格 ¥128,000 (税別) と 716 のピアノブラック&レザー仕上げのメーカー希望小売価格 ¥117,000 (税別) とその差は僅かです。音の差も非常に小さく、仕上げの好みもありますが、私は迷わずウーファーが一つ少なく、より使いやすいであろう Chorus716 を選びます。この曲でも 716 と 726 の低音の違いはほとんど意識されません。逆に余計な低音が無くなった分だけ、中高域の透明感と分離感がさらに上昇しているようにさえ感じます。

しかし、見た目の印象は突き板仕上げとピアノブラック&レザー仕上げで高級感にかなり大きな差を感じます。2色用意される突き板仕上げは木目も美しく上質ですが、表面に使われているウレタン系?のクリア塗装の影響が、表面がビニールコートされているようにも見えます。コートが厚い分耐候性には優れるのですが、オイルフィニッシュのような自然な木の質感がやや薄くなっています。見た目の印象を大切

になさるなら、ピアノブラック&レザー仕上げのブラックハイグロスモデルの高級感がより高くお薦めです。
肝心の音質ですが、926 と比べて最低域の量感が僅かに減じられているものの、音楽を聞いている限りスピーカーが一回り小さくユニットが一つ少なくなった影響はほとんど感じられません。音調や分離感、立体感にもほとんど差がなく、ヒラリー・ハーンを聞き限り 716/726 は、「どちらでも良い」というのが正直な感想です。
うか?マドンナの声が一段と柔らかく、女性らしい肉付きの良さを感じさせる音に変わります。より肉声に近くなるイメージです。打ち込みのシンバルの高音も立ち上がりアタックは少し優しくなりましたが、余韻が滑らかに後を引きリズムが流麗になりました。
ウーファーが一つ減り、キャビネットが小さくなったにもかかわらず低音 (ベース音) の量感や音階の明瞭度は、726 とほとんど変わりません。逆に 726 よりも聞こえない領域に近い重低



Madonna "The Immaculate Collection" から Like a Virgin
ヒラリー・ハーンではそれほど違いを感じなかった 716/726 の違いが、この曲ではよっきりします。パツフルに貼り付けられた人工皮革の効果でし



orange pekoe "10th Anniversary Best Album SUN&MOON" から やわらかな午後
726 で少し気になったギターの金属的な感じが緩和されていますが、このあたりパツフルの材質差が出ているのかも知れ

ません。パーカッションは若干湿っぽくなりますが、ボーカルはより柔らかく人間が歌っている肉声に近く感じます。仕上げにより音が多少違うことを考慮して、ボーカル系のソースならピアノブラック&レザー仕上げ、器楽曲系のソフトがメインなら突き板仕上げ、とお聞きになる音楽のジャンルで仕上げを選ばれるもの良さそうです。

Focal New Chorus 714 音質テスト



Hilary Hearn "Bach Concerto"
Chorus 700 Series が見事だと思えるのは、使用するユニットの口径とキャビネットの容量が変わっても、スピーカーの基本的な性能や音色がほとんど変化しないことです。前

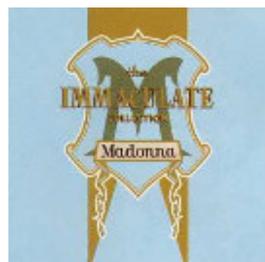
のお部屋でスピーカーを選ばれるなら、またどちらかと言えば小音量で音楽をお聞きになれることが多いなら、ユニットが小さくキャビネット容量も少ない 714 をお選びになることで、上級モデルよりも「精緻」に音楽をお楽しみいただけると思います。
714 はトールボーイと言うよりは、ブックシェルフに近く、濁りがより少なく癖もないニュートラルなサウンドでヒラリー・ハーンを鳴らしました。



orange pekoe "10th Anniversary Best Album SUN&MOON" から やわらかな午後
この曲でも 714 は、716/726 が持っていた「空気が動くようなリアルなライブ感」が薄くなっています。

たように、口径が異なるサイズのウーファーやスクーアーを同一のツイーターと組み合わせるときには、再生される楽器の質感や音色が変わり、モデル毎に特長が出ます。それが大きいと善し悪しに変わるので、前作では感じられたその善し悪しが新型の Chorus 700 Series ではトールボーイ 3 機種を聞き比べる限り、感じ取れません。
しかし、716 の 165mm から 714 で 130mm とサイズダウンされたスクーアーとウーファーの影響が音に顕著に現れます。バイオリンの音が少し細くなり、コントラバスの音がチェロに近くなりました。コンサートホール、楽団、楽器のサイズが少し小さくミニチュア的に感じられます。ユニットとキャビネットのサイズダウンと正確に比例して、楽団が縮小されました。
しかし、その縮小スケールは非常に正確なので、しばらく聞いているとサイズダウンが気にならなくなります。8 畳以下

Madonna "The Immaculate Collection" から Like a Virgin
低域はしっかりと弾みますが、ボリューム感は減少しました。ボーカルも一回りスケールダウンして、可愛くキュートな声になりました。中低域の力感とボリューム感が若干低下しますが、帯域内でのバランスは向上しています。
716/726 はボリューム豊かなライブサウンドでマドンナを鳴らしました。714 はそれよりも引き締まった、Studio の緊張感を伴う音でマドンナを鳴らします。
Focalらしい艶と上々に溢れる 716/726 に対し、B&W の持ち味である理知的な感覚を少し強くしたモデルが 714 です。



Madonna "The Immaculate Collection" から Like a Virgin
低域はしっかりと弾みますが、ボリューム感は減少しました。ボーカルも一回りスケールダウンして、可愛くキュートな声になりました。中低域の力感とボリューム感が若干

716/726 は身体を包み込むようなリッチな音場を実現し、ライブを聴いているイメージでこの曲を鳴らしました。それらと比べると 714 は、間接音よりも直接音のエネルギーが強く「場の雰囲気」よりも「楽器の存在感」がより強くなります。その結果、イメージがライブからスタジオへと変化します。
トールボーイの 3 モデルを聞き比べて、726 が最もライブ感と雰囲気感が濃く、716 はそれに続きます。714 はこの 2 機種とは少し違って、スタジオで音楽 (演奏家) と対峙しているような、モニター色が強くなります。
私は、ライブ感とスタジオ感の両方を「中庸」ではなく「両立」させている 716 がトールボーイで最もお薦めだと思いますが、リスニングルームの大きさ、音楽をお聞きになる音量、現在お使いの装置との相性、お好みの音楽のジャンルなどに合わせて、マッチするモデルをお選び頂ければと思います。

Focal New Chorus 706 音質テスト



Hilary Hearn "Bach Concerto"
2Way スピーカーのウーファー口径が 100mm を超えるとツイーターのつなぎ目に異質な感じが覚えることが多くなるのですが、165mm という大口径のウーファーを搭載するにもかかわらず、706 のツイーターとウー

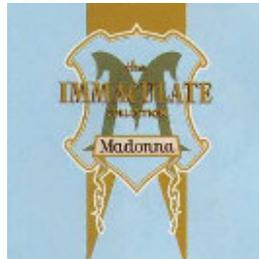
ファーの繋がり良さには驚かされます。NewChorus700Series のスペック表を見ると、モデルにかかわらずツイーターは 3000Hz、ウーファーは 300Hz でオーバーラップされていますが、通常同じ口径のユニットを使った場合でも、モデル毎にオーバーラップする周波数(クロスオーバー周波数)は変えられているのが普通です。Focal でも上級モデルの Aria ではモデルに応じてクロスオーバー周波数が変えられています。Chorus でそれを変えていないのは、「面倒だった」からではなく、「変える必要がなかった」からと考えます。706 を聞いてみると、搭載する 165mm 口径のウーファーが上限の 3000Hz までしっかり高域を再生していることがわかります。多くの場合、ウーファーの口径が 100 ~ 130mm を超えると高域の音色が鈍くなり、ツイーターの鋭い音と質感(周波数特性ではなく)が繋がらなくなることが多いのですが、NewChorus700Series がウーファーに採用するグラスファイバー樹脂ハイブリッドユニットは、通常のウーファーが再生できない高域まで歪みなく再生することが可能で見事にツイーターと繋がります。さらに新型 "IM2" ツイーターは、クロスオーバーが設定される下限の 3000Hz よりもさらに低い周波数でも歪みなく再生する能力を持っているはずで

す。3000Hz 一定" というネットワークの数値は、Chorus が採用したウーファー / スコーカーがその周波数よりも余裕のある下限 / 上限を再生可能な非常に優秀なユニットである証だと思います。

706 は大口径ウーファーを採用する 2Way とは思えない自然な音の繋がりが魅力です。低域はトールボーイの 714 とそれほど変わらなく感じたので、スペック表で確認すると 714/43Hz・706/47Hz と僅差でしたが、再生される低域もほぼその数字に比例し、706 でもコントラバスのパートがきちんと再現されます。

精緻さや立体(定位)感の正確さで、キャビネットが大きいトールボーイはブックシェルフに一步譲ります。また、714 からユニットの数が 3 つから 2 つに減り、ネットワークによる帯域分割数が 1 つ減ったことで、706 は 714 よりもさらに自然で深みのある音を出しました。

706 は外観こそブックシェルフですが、その枠を超える帯域再現能力と、音楽表現能力を持つ良いスピーカーです。



Madonna "The Immaculate Collection" から Like a Virgin

165mm の大口径ウーファーを搭載する威力で、低域がしっかりとリズムカルに弾みます。十分な量感のある低域が再現され、ブックシェルフ型スピーカーを聞いているとは思えません。また、714 ではやや細身に感じたマドナの声が 706 で再び太さを取り戻しました。また「キャビネット(エン

クロージャー)の紙のような低級な響き」はまったく感じられず、価格以上の質感の高さを実感できます。

これまでの経験では、2Way スピーカーに使われるウーファーの口径は 130mm が最も良好で、それ以上大きくなると音が鈍くなりました。しかし、新しい Chorus Series は良い意味で例外です。706 は搭載する 165mm ウーファーとツイーターの繋がりが良好で、その段差をまったく感じさせません。もしかすると 130mm 口径ウーファーを搭載する 705 よりも繋がりがよいのかも知れませんが、それはこの後で試聴する 705 を聞けばわかるでしょう。706 は価格と外観から受け取れるイメージを超えて、とても良くできたブックシェルフスピーカーでした。



orange pekoe "10th Anniversary Best Album SUN&MOON" から やわらかな午後

イントロ部のベースの低音の量感と密度の高さに驚かされます。Tigon のスタンドとの相対にも優れ

るのかも知れませんが、このクラスのブックシェルフとは思えないほど豊かな低域が出ます。パスレフによる低域に膨らみや遅れも感じられず、キャビネットもしっかり作られているのでしょう、不要に膨らんだ響きも感じられません。2Way の良さで伴奏との分離に優れ、実に自然な声でオレンジ・ペコが歌います。伴奏とボーカルのタイミングもピッタリと合い、リアルで楽しいサウンドでオレンジ・ペコが鳴りました。

Focal New Chorus 705 音質テスト



Hilary Hearn "Bach Concerto"
714 で感じたように、ウーファーの口径が 130mm だと弦の音が少し細くなります。しかし、低音は意外にしっかり出てきて、コントラバスのパートもきちんと再現されます。

705 ですが、それでも小型スピーカーと聞いて我慢しなければならぬ部分はほとんどありません。高音も澄み切って美しく、弦楽器の倍音が鮮やかに再現されます。全帯域での音速感が統一され、見事な低音、中音、高音のタイミング感の一致に小型口径のウーファーを使うメリットを感じます。しかし、706 は 165mm 口径の大型ウーファーを搭載するにもかかわらず音速を見事に統一していましたから、705 では 706 よりも中音が痩せ(厚み感の低下)することが気になりました。

一般的に他社製品と比べると水準以上の出来でとてもよい音なのですが、706 の 165mm ウーファーのゆとりある音を聞いてしまった後では、設置場所さえ許すのであれば 706 を使いたいと思いました。



Madonna "The Immaculate Collection" から Like a Virgin

705 と比べ明らかに低域が不足し、打ち込みのベースの音量が小さくなりました。歯切れ良く、はっきりした音ですが、エネルギー感や躍動感も 706 からか

なりダウンします。705 のピアノブラック&レザー仕上げモデルは、外観も美しくデザインにも優れています。しかし、706 との価格差を考えると 706 が買い得だと思います。また、706 ではサイズが大き

ざると感じられる場合には、705 よりも小さいサイズで音の良い PMCDB1 や、割り切った低域に魅力を感じる AFBOW IMAGE11/KAZ などをお薦めします。



orange pekoe "10th Anniversary Best Album SUN&MOON" から やわらかな午後

イントロ部の低音は、思ったよりもシッカリ出ます。ボーカルはやはり少し線が細く、さらに悪いことに強さが失われました。

綺麗な音ですが、706/716/726 が持っているような強さ、躍動感の強さが感じられず、しばしばぼんやりしているイメージです。Chorus700Series のお薦めは、165mm 口径ウーファーを搭載する 706/716/726 の 3 モデルで決定です。また、716/726 をフロントに使うサラウンドをお考えの場合、リアスピーカーには同じ 165mm 口径のユニットを搭載する 706/714/726 が音色が統一されるのでお薦めです。

試聴後感想

各モデルの試聴レポートに感想を交えましたので、改めて試聴後感想をお読みいただく必要はありませんが、Focal Chorus 700 Series のお薦めは 165mm 口径ユニットを搭載する 706/716/726 の 3 モデルです。この 3 モデルの音は明るく力強く、音楽を楽しく躍動させま

す。組み合わせるコンポーネントやジャンルを選ばず、わかりやすい「良い音」が出せますが、フランス製品らしい「情緒の深さ」も合わせ持ちドライになりすぎません。この点がイギリス製品の B&W との違いです。外観は好みがあると思いますが、ピアノブラック&レザー仕

上げの質感が一段と上質に感じました。音楽を身近に楽しませてくれるオーディオ機器として、Focal 700 Series は高く評価できるお薦めスピーカーです。